



編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年9月発行



新資料発見！！ 飛鳥山巨大防空壕の平面図



戦時中、飛鳥山公園の地下に防空壕が掘られていたことは、良く知られていました。例えば、1975年(昭和50)発行の『滝野川警察署史』には、つぎのようにあります。

「昭和19年に崖の中腹に30メートル間隔で奥行約20メートルの横穴を掘り、地中で横穴を左右に連絡させた「空襲避難用横穴式防空壕」がつくられた」(231-232頁)

この記述だけだと、その規模がよく分からないのですが、この本には約70名の人々が、警察官の誘導でその防空壕に避難したとあるので、かなり大きなものだったことが推測できます。その文はつぎのようなものです。

「遠方からの避難で疲れ果てた老人や子供たち約70名が、同署玄関の西方10メートルの所にある、二本榎の北側にしゃがみ込んで、現に敵機が上空に飛来しているにもかかわらず、動こうとしなかった。

これを見た本多巡査は、いつ北側にも火災が発生するかわからない。その場合は、機敏に避難できないこの人達は非常に危険であると判断し、同僚の二巡査の応援を求めて、しぶっているこの人達を励まして、約500メートル離れた飛鳥山の「大待避壕」に全員を誘導して避難させたのである。」(172頁)

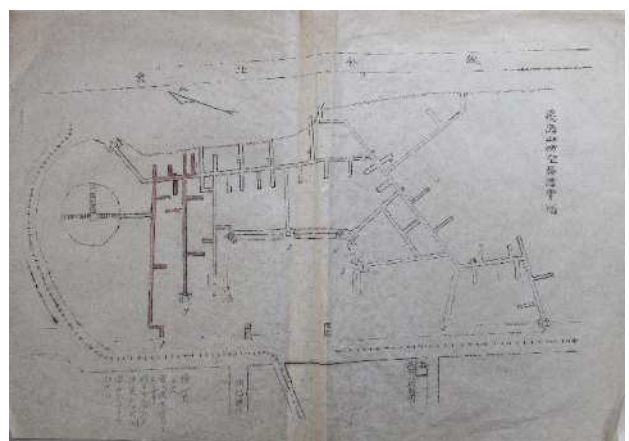
このように、今までは文字の資料で、飛鳥山公園の防空壕の規模を推し量るしかなかったのです。ところが、最近、その防空壕の規模を示す

平面図が発見されました。

北区の部屋では、滝野川馬場自治会が保存していた戦中戦後の資料を保存・調査しています。それらの資料中に、飛鳥山公園の防空壕の平面図が含まれていたのです。それは「飛鳥山防空隧道要図」です。隧道とはトンネルのことで、確かに東西南北さらに斜めにも何本ものトンネルが掘られており、防空壕のイメージを遥かに超える地下要塞のようです。入口は、線路側、明治通り側、中央のグラウンドの周辺というように、たくさん設置されていました。この規模であれば、周辺の町内会の人々や、電車の乗客など、大人数の避難に利用できたはずで

す。戦争が終わって79年ですが、新資料の発見という点では、今も「戦後」が続いています。

(地域資料専門員 黒川徳男)



【写真】滝野川馬場自治会文書「飛鳥山防空隧道要図」

★北区の部屋・今月の展示：ミステリアスな駅の名前

◆期 間：8月23日(金)～9月25日(水)

◆場 所：「北区の部屋」企画展示コーナー



東十条駅と下十条運転区
平成22年(2010)撮影

北区には、たくさんのJRの駅があります。また、かつては、様々な都電の路線が通り、多くの停留場がありました。そんな駅や停留場にまつわる、いろいろな不思議があります。それらの不思議を解き明かそうとすると、意外な歴史にたどり着きます。

今回の展示では、駅名の謎をはじめ、駅や停留場に関する様々な不思議についてご紹介します。

★公開歴史講座、終了しました！：おこぼれ頂戴！～『北区こぼれ話』のこぼれ話～

◆日 時：7月27日(土) ◆場 所：中央図書館3階ホール

◆講 師：黒川徳男 保垣孝幸 地域資料専門員

今回の講座は、『北区こぼれ話3』の刊行を記念して開講されました。執筆を担当している地域資料専門員両名が登壇し、「北区こぼれ話の役割について」や、「全国にある飛鳥山の字は鳥(とり)か鳥(からす)か」など様々なエピソードが語られました。

講座終了後のアンケートでは「今回の講座で北区の部屋だより(本紙)に関心が湧いた」「今後こういった講座も聞いてみたい」など、幅広いご意見・ご感想をいただきました。



講師・保垣孝幸
地域資料専門員



講師・黒川徳男
地域資料専門員

★戦前から昭和20年代にかけての資料を探しています

北区では、毎年「平和祈念週間」の5日間(今年は8月6日(火)～10日(土))に、平和を願う様々な催しを実施しています。図書館も、北とぴあで開催された「平和展」にパネル展示で参加しました。

北区では、悲惨な戦争体験を語り継ぎ、平和の尊さを後世に伝えるため、令和7年度に戦後80年記念誌の発行を予定しています。

発行にあたり、戦前から昭和20年代にかけての資料を収集しています。当時の写真や出征・勤労動員・空襲・学童疎開・区民生活に関する資料(回覧板、配給切符、手紙、日記など)をお寄せください。

まずは電話またはファクスで、中央図書館(北区の部屋)にご連絡ください。

※資料は大変貴重なものです。現物の郵送はお避けください。



北とぴあでの展示の様子

中央図書館(北区の部屋) TEL.(5993)1125 FAX.(5993)1044



北区の部屋だより

2024年10月第182号



刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年10月発行



ちょうじゅ 長寿の祝いと異体字



日本では、古くから様々な年齢を節目として長寿のお祝いが行われてきました。干支が一週する60歳の祝い「還暦」や、現在では「稀」でもなくなっていますが、「人生七十、古来稀なり」と詠まれた漢詩に由来する70歳の祝い「古希」。それから「喜寿」「傘寿」「米寿」「卒寿」「白寿」などといったように続いていくのですが、こうした長寿の祝いの呼び方はそれぞれの漢字、とりわけ異体字に由来しているのをご存知でしょうか。

異体字とは、通常用いられている字とは異なったかたちで通用している字のことをいい、江戸時代の古文書などにも頻繁に用いられてきました。ただ「通常用いられている字」の明確な定義はなく、ただ漠然と異体字と呼んでいるに過ぎない側面もあり、常用漢字というものがあるが告示されている現在では、常用漢字表に記載されている字体以外のかたち、俗字や略字、古字などのほか、草書体のくずし字のような字も広い意味で異体字とする向きもあります（『異体字解説字典』柏書房、1987年）。

さて、話を戻しますと、77歳の祝いである「喜寿」ですが、「喜」の字を草書体で書いた場合、「七」を3つ重ね「𠂔」と記します。

これが「七十七」に通じることから77歳の祝いを喜寿といいます。80歳の祝いの傘寿は「傘」の字を「伞」と書く異体字があり、これが「八十」を一字で書いたかたちになることから傘寿になっています。「卒寿」も「卒」の字を「𠂔」と書くことから「九十」の祝いが卒寿と呼ばれています。ちなみに「𠂔」も「伞」も「卒」も江戸時代の古文書にはよく出てくる字といえます。

これ以外にも「八十八」を一字で「米」と書くことから88歳の祝いを「米寿」と、「百」から「一」を引いたかたちである「白」を、そのまま99歳の祝いとした「白寿」のように、異体字ではありませんが漢字のかたちを語源にしている長寿の祝いもあります。

先だって総務省が2024年9月15日現在の65歳以上の高齢者人口について、3,265万人で過去最高を更新したと発表しました。こうした長寿の祝いの対象者も増えているものと思われませんが、さらにいえば今後現代の社会に即応したかたちで、新しい「〇寿」といった長寿のお祝いも誕生することになるのかも知れません。



【地域資料専門員 保垣 孝幸】



～「実測東京全図」に見る江戸から 明治への移り変わり～

◆展示期間 9月27日(金)～10月23日(水)

◆展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー



明治11年(1878)に内務省が発行した「実測東京全図」を見て、江戸から東京への移り変わりを概観します。



『「北区」が登場する本のリスト』を更新しました！

◆北区立図書館では、「北区」に関する記述のある本の目録、『「北区」が登場する本のリスト』を作成し、毎年10月に情報を追加しています。今年も区内全図書館に、更新したリストを置きましたので、ご覧ください。

◆リストにある本の背表紙に【さくらマーク 】が貼ってあります。

お手にとって、どんな「北区」が描かれているか、ぜひチェックしてみてください。

※リストは図書館ホームページでもご覧いただけます。

【北区が登場する本】の情報は随時募集中です。

「北区」の記述がある本を発見したら、各図書館に置かれている、『北区が載っている本を教えてください』に詳細を記載し、図書館のスタッフへお渡しください。
皆さまからの情報をお待ちしております♪



用紙は、
各図書館の
カウンターや
記載台に設置
してあります。

北区が載っている本を教えてください	
著者	
書名	
発行所	
発行年	
所蔵している図書館	
備考	



今年も開催します♪

～東京文化財ウィーク 2024～



◆東京都教育委員会では、毎年11月3日(文化の日)を中心に、都内全域の文化財の公開やさまざまなイベントを実施する『東京文化財ウィーク』を開催しています。

北区内でも旧醸造試験所や旧赤羽台団地といった場所の特別公開や各種講座の開催などがあります。詳しくは、下記ホームページでご確認ください。(ガイドブックの配布はありません)

◆『東京文化財ウィーク 2024』開催期間

◎特別公開事業

◎企画事業

10月26日(土)～11月4日(月・祝日)

10月1日(火)～11月30日(土)

◇問い合わせ先: 東京都教育庁地域教育支援部管理課文化財保護担当

電話: 03-5320-6862

<https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/sesaku/week.html>





北区の部屋だより

2024年11月第183号



刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 令和6年11月発行



ポンプの井戸と 吹き上がる井戸



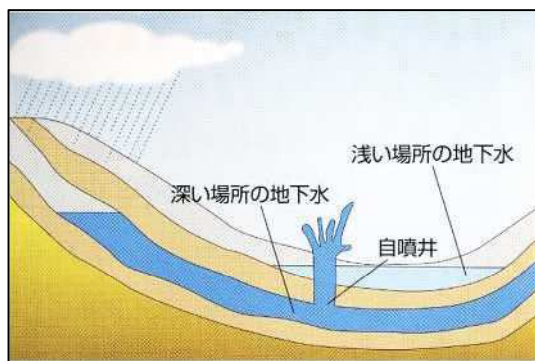
昔の井戸と言えば、多くの人が、いわゆる釣瓶井戸^{つるべ}を連想するでしょう。時代劇などに出てくる、滑車^{かつ}で水をくみ上げる井戸です。私は、田舎で育ったので、子どもの頃は井戸水で生活していました。さすがに、釣瓶井戸ではなく、ポンプの井戸を使っていました。ガシャコガシャコと上下に動かす手動式のポンプもありましたが、日常的には自動で蛇口^{じゃくち}から出てくる井戸水を使用していました。モーターで水をくみ上げていたのです。

北区でも、全ての地域に水道が普及したのは、昭和30年代のことで、それまでは井戸水を使用していた地域もありました。戦後に撮影された写真にも、手動式ポンプの井戸を使って洗濯をする様子が記録されています。これは、赤羽駅の西側、台地の上で撮影された写真です。



手動式ポンプの井戸（昭和初期 渡辺肇氏提供）
赤ちゃんをあやす男性の背後に、手動式ポンプの井戸で水を汲む女性や、たらいで洗濯をする女性が見えます。

一方、明治から昭和戦前期にかけて、北区の低地部には、ポンプを使用しなくても、噴水のように吹き上がる不思議な井戸がありました。「自噴井^{じふんせい}」と呼ばれるものです。浮間の農家や赤羽駅前の旅館、王子第一小学校などに自噴井があったことが確認できます。自噴井の仕組みは、下の図のとおりです。台地に降った水が、低地の地下に溜まると、地下水面より低い場所では、噴水のように吹き上がるのです。水槽^{すいそう}からホースで水を抜くときに、片方のホースの先を水面より低くすると水が出続けるというサイフォン^{サイフォン}の原理です。



自噴井のしくみ

（『北区の歴史ははじめの一步』浮間編より転載）

自噴井は、通常の浅い井戸とは異なり、上総掘り^{かずさ}と言う特殊な方法で、細く深く掘られました。このような、面白い井戸も、戦中戦後に、大工場が地下水^{こかつ}をくみ上げるようになると枯渇し、やがて人々の記憶からも失われていきました。

【地域資料専門員 黒川 徳男】

北区の部屋
今月の展示

「米軍が撮影した戦後の北区」

～板橋区教育委員会による

米国国立公文書館調査より～



■展示期間 10月25日（金）～11月27日（水）

■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー



【写真】星美学園の戦災孤児 米国国立公文書館所蔵 板橋区教育委員会調査

戦前の王子区には、様々な日本陸軍の施設がありました。終戦後、それらは連合国軍に接收され TOD（東京兵器補給^{ほきゅうしょう}廠）などを使用されました。さらに、朝鮮戦争下では、米軍の兵站基地^{へいたん}※として使用されました。米軍のカメラマンたちは、TOD を中心に区内の様子を撮影していました。それらの写真は、米国国立公文書館に保存されています。このほど、板橋区教育委員会は、米国国立公文書館を調査し、板橋区だけでなく北区の米軍撮影写真も発見しました。それらの写真の一部を展示いたします。どうぞご覧ください。

※兵站基地：軍隊における補給・輸送・管理整備をする基地



公開歴史講座

「兵器工場の歴史～新資料で深読みする～」



日時：12月1日（日）午後2時～4時

会場：中央図書館3階ホール

講師：黒川 徳男地域資料専門員

対象：中学生以上の方（応募者多数の場合、区内
在住・在勤・在学の方優先で抽選）

定員：40名

締切：11月13日（水）（必着）

申込：往復はがき（記入例参照）に必要事項を記入して下記まで。

※視覚障害・聴覚障害のある方は電話・FAXにて、お申込みいただけます。（ただし、抽選結果をお知らせするため、自宅にFAXのある方のみ受付可）。
※障害のある方で付添いが必要な方は付添人1名まで可（申込時にその旨記載のこと）
※会場にはヒアリンググループ補聴援助システムが設置されています。



【写真】米陸軍兵器補給廠（赤羽）
米国国立公文書館所蔵 板橋区教育委員会調査

（往復はがき記入例）

【返信面表面】	【往信面裏面】
申し込む方の	講座名
郵便番号	郵便番号・住所
住所	氏名（ふりがな）年齢
氏名	電話番号（FAX 番号）
	その他必要事項



◎申込/問合せ

〒114-0033 北区十条台1-2-5 中央図書館 図書係

電話：03-5993-1125 FAX：03-5993-1044



北区の部屋だより

第184号



2024年12月



刊行物登録番号 5-2-167

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125

令和6年12月発行

北区
こぼれ話
第184回

みんなで守る古文書

～所蔵者の「善意」に甘え過ぎないために～

地域に残る古文書は、その地域を知る上で欠くことのできない大切な記録であり、まさに地域住民共有の文化遺産といえます。歴史資料の保存や活用に携わる人のあいだでは、概ね共通に理解されている理念かと思いますが、一方で現実に古文書の保存を考えた場合、ある特定の人に負担が集中してしまっているのが現状といえます。それは所蔵者です。

そもそも地域の古文書は、それを所蔵してきた家が代々大切に保管してきたからこそ現在に伝わっています。所在が確認されると、それが地域を知る上で重要な記録であることをご理解いただき、その上で調査を進め、合わせて古文書の整理が行われ保存措置が講じられることになります。そして、一定の調査、整理が済むと、多くの場合で古文書は所蔵者に返却され、以後は所蔵者宅で保管されていくことになります。

古文書を所蔵者に返却する理由の一つに「げんちほそん げんそく げんちほそんしゅぎ現地保存の原則（現地保存主義）」があります。これは、古文書は代々伝えられてきた所蔵者宅やその場所で保存、活用されていくことを第一義とするといった考え方です。こうした考え方自体に問題があるとは思いませんが、その結果、返却された古文書の保存が、所蔵者の義務になってしまっていることは否めません。

北区に限らず、現在、地域の古文書の多くは、所蔵者の「ぜんい どりょく善意の努力」によって保存され、後世に伝わっているといっても過言ではないのです。果たしてそれでいいのでしょうか。

古文書が地域住民共有の文化遺産であるならば、その保存に対する努力を所蔵者だけに負わせるのではなく、地域が一体となって取り組むべき課題ではないかと考えます。これは何も古文書を地域の公共機関で保管すべきだといっているわけではありません。所蔵者宅で保管されていたとしても、地域として、地域の公共機関として協力できることはないか、常に考えていかなければならないということです。

こうしたことから、北区では調査が終了し、所蔵者へと返却した古文書についても改めて各宅を巡回して借用し、これをくんじょう燻蒸（きか気化させたやくざい薬剤などにより防虫、防菌などの措置を施すこと）する「巡回燻蒸」という試みを2000年（平成12年）から実施しています。毎年実施している訳ではありませんが、今年は久々に実施する年に当たっています。まだまだ多くの課題を抱えていますが、所蔵者とともに保存に取り組むため地域として何ができるか。「巡回燻蒸」は、まさにその一つの試みなのです。

【地域資料専門員：保垣孝幸】



北区の部屋 今月の展示

米軍が撮影した戦後の北区

—板橋区教育委員会による米国国立公文書館調査により—

【期間】令和6年10月25日（金）～12月28日（土）

【場所】「北区の部屋」企画展示コーナー

12/1 開催の公開歴史講座への申込数が定員をはるかに上回る応募がありました。
それに伴い講座内容に関連する11月の展示期間を年末まで延長いたします。

また、展示コーナーには12/1の講座で配付した資料もご用意しました。

*資料はお1人様1部まで、なくなり次第終了となります。



上十条図書館が閉館しました



昭和60年7月の開館以来、長きに渡り沢山の地域の皆さまにご利用いただきました上十条図書館が令和6年11月24日に閉館いたしました。

最後の月には、館内に上十条図書館の年表と利用者さまに館内のお気に入りの場所をシールで示してもらったり、図書館へのメッセージを貼っていただくボードを設置しました。好きな場所に貼られた色とりどりのシールや小さな文字でびっしりと思いが書かれたメモから、地域に愛され、利用者さまおひとりおひとりにとって大事な場所だったことがうかがえました。

これまでご愛顧くださった利用者の皆さま、ありがとうございました。

*北区立図書館所蔵資料の返却・予約資料の受取は、十条駅前「ジェイトエル」（R6.12.1開設）もご利用いただけます。



【閉館前の館内の様子】

小学生向けワークショップ 「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」

北区図書館活動区民の会地域資料部企画・運営

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段は何気なく利用している
この場所は、実は…！？親子で謎を解きながら歴史の核心に迫る！



★対象：区内在住の小学生と保護者（必ず保護者同伴・小学6年生優先・1家族で1組）

★定員：15組（抽選）★日時：令和7年1月12日（日）午後4時45分～7時

★場所：中央図書館3階ホール集合

<申込方法・問合せ先>

※往復はがきの往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名（ふりがな）、年齢、学年、電話番号、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入の上、12月12日（木）必着。

※ファクスでも申込み可。ただし、自宅でファクス受信可能な方限定。申込書は各図書館、または北区図書館ホームページでダウンロードできます。

〒114-0033 北区十条台1-2-5 北区立中央図書館図書係 Tel03-5993-1125 Fax03-5993-1044

北 区 こぼれ話 第 185 回



浮間橋を渡っているのは 工兵隊なのか？



浮間と赤羽北の間に新河岸川しんがしがわが流れています。その川に、昭和 3 年(1928)初代の浮間橋が架けられました。工事を担当したのは陸軍近衛工兵大このえこうへい隊でした。工兵とはミリタリーエンジニアの和訳で、土木・建築を担当する部隊のことです。自衛隊では施設科に該当します。近衛工兵大隊の兵舎は、現在の東京北医療センターの位置にありました。浮間橋の工事費用を負担したのは浮間の人々で、合計 6000 円を出し合いました。そのため、初代の浮間橋は「6000 円橋」とも呼ばれていました。

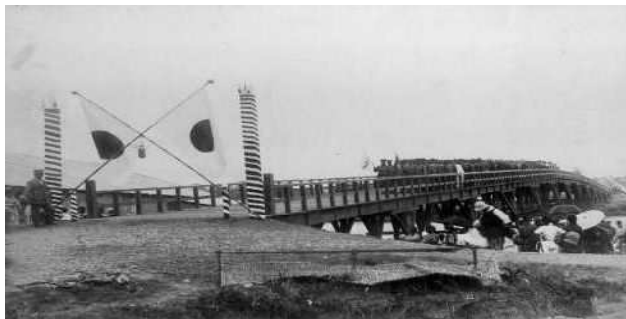


写真 1 昭和 3 年(1928) 浮間橋の渡り初め

写真 1 をご覧ください。浮間橋の渡り初めを写したものです。浮間の複数の旧家に保存されていました。この写真について「行進をしているのは工兵隊です」と地元の皆様に説明を受けたことがあります。私も、そうなのだろうと思っていました。

しかし、ある時、写っているのは本当に工兵隊だろうか、目を凝らしてみました。列の後半は、和装や洋装など様々な服を着ているので地元の人々でしょう。最前列から神職の前まで、全員が軍服のような姿です。この人々が工兵隊ということ

なのでしょう。さらに、よく見てみると、服がバラバラであることに気づきました。襟えりが閉じている人、開いていてネクタイ姿の人、腕章をしている人、していない人。この人達は、現役の軍人ではなく、予備役よびえきや後備役こうびえきのように見えます。つぎに、先頭の旗に注目しました。二つ掲げられた旗のうち、白地の



写真 2 奉公袋

ものはデザインが確認できます。「この旗の紋章、どこかで見たな」と思いをめぐらせていると、記憶がよみがえってきました。在郷軍人会の紋章です。

以前に区民の方からいただいた奉公袋(写真 2)や徽章きしやうがこの旗と同じデザインだったのです。中央に星、さらに二つの剣と、それらを囲むような碇いかり。これは、陸軍を象徴する星や剣と、海軍を表す碇を組み合わせた紋章です。その左右に、波か山のようなジグザグの縞模様というデザインです。つまり、この写真の先頭で行進している一団は、工兵隊ではなく在郷軍人会です。それならば、軍服のばらつきも納得できます。

工兵隊が浮間橋を架けたという史実が転じて、渡り初めの写真にも、工兵隊が写っているはずだと考えられるようになったのでしょうか。写真を解釈する時、先入観を持たず、まずは、見たままに解釈すべきであると自らを戒めたのでした。

【地域資料専門員 黒川 徳男】



「税務署と図書館」

- 展示期間 1月5日(日)～1月22日(水)
 - 展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー
- ※今回は、区民の会の会員が作成を担当しました。



生まれ育ちが違って、社会、経済、資金、敷地が織りなした王子税務署と北区図書館の不思議な縁をご紹介します。



公開歴史講座を開催しました♪

先月、12月1日(日)に中央図書館のホールにて、「兵器工場の歴史～新資料で深読みをする～」を開催しました。

最近発見された新資料をもとに、講演を行いました。

40名の募集人数にも関わらず、倍近い人数の応募があり、急遽、机のない椅子のみの席も増やしました。

新しい資料では、板橋区教育委員会から提供された米国国立公文書館の写真をふんだんに交えながら、あっという間の2時間でした。

参加された方々からも、「ぜひまた、続きを行ってほしい」等、たいへんご好評をいただきました。



講師：黒川徳男 地域資料専門員



講座当日の様子

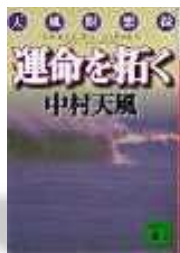
〈北区民の著作紹介〉



うんめい ひら
『運命を拓く』

なかむら てんぷう
中村 天風

講談社文庫 書誌番号 B12606369



思想家で、多くの著作を著した中村天風は、1876年(明治9)7月30日、東京府豊島郡王子村(現北区王子)生まれの北区ゆかりの人です。

父は、現在の国立印刷局 初代局長 中村 祐興で一家は官舎に住んでいたそうです。

本書では、著者自身が、若い頃、何度も生死をさまよう経験をしていることから、「積極的人生」のすすめを説いています。

アメリカのメジャーリーグで大活躍中の大谷翔平選手の愛読書でもあり、高校生の頃、恩師に読む習慣を身につけるよう、勧められ、出会った本の中の1冊とのこと。

なにか、人生に悩んだ時、背中を押してもらえそうな本です。この機会に読んでみてはいかがでしょうか？

※なお、著者の半生や教えを描いた漫画もあります。

『マンガ 中村天風』全4巻 書誌番号 B10888694/B10891501/B10976659/B10980896

『まんがでわかる中村天風の教え』 書誌番号 B11528078

『中村天風の教えがマンガで3時間でマスターできる本』 書誌番号 B13387578

